

ステップだより

拠点校：日野市立南平小学校

巡回校：日野市立豊田小学校

令和4年11月号

自分の気持ちを安心して伝えられる場所に

朝夕と日中の寒暖差が大きくなり、木々の葉が色づいてきたことから、秋の深まりを感じています。『芸術の秋』、子供たちは、学習発表会に向けての練習が始まってきます。

ステップ教室の小集団活動では、毎回必ずやっていることがあります。8つの表情カードの中からその日の自分の体調や気持ちに一番近いものを選ぶ「心の温度計」です。「元気・すっきり」「まあまあ」「いい感じ」を選ぶことが多いですが、時には「疲れた・ぐったり」「イライラ・怒る」「心配・緊張」「悲しい・つまらない」「ちょっと困っている」を選ぶこともあります。天候が不順な時や運動会や学習発表会等の練習期間中には「疲れた・ぐったり」と答える子が増えます。そんな時には個別学習でじっくりと話を聞くようにしています。

学習発表会に向けてがんばっている様子の子供たち。「元気です。」「いい感じです。」とプラスの気持ちを答えてくれることはもちろん嬉しいのですが、自分の身体の調子、心の調子に向き合い、「イライラしている。」「悲しい。」などマイナスの気持ちも安心して伝えられるように、丁寧に一人一人の言葉に耳を傾けていきたいと思います。

～お知らせ～

○12月に、ステップ教室利用児童の保護者学習会を行います。

明星大学准教授の竹内康二先生をお招きし、ご講演いただきます。

講演内容・場所は、後日ご連絡いたします。

【南平小・豊田小の保護者の方】

12月20日（火）10：00～11：30

○12月12日～20日（土日を除く）にステップ教室の面談を予定しています。

日程調整のお知らせを配布しますので、ご確認ください。よろしくお願いします。

※児童の実態に応じて学習しています。一部の活動を紹介します。

【スライム・折り染め】

子供たちは、モノ作りが大好きです。スライムは、色水、のり、ホウ砂水を適量入れ、納豆をかき混ぜるようによくかき混ぜると完成です。自分で作ったスライムを触った感覚を味わい、どんな感じがしたかを友達に伝えました。折り染めは、半紙を半分に折り、一度広げてから中心の折り目に合わせて折ります。長方形に折られた半紙を端から線に合わせて、三角形に蛇腹折りして小さくします。次は、三角の3つの角をペンを使って好きな色で塗りました。最後に色を塗ったところに水をちょっと浸し、広げるときれいな模様の折り染めが完成します。子供たちは、自分の作った折り染めの模様や色が何に見えるかイメージし題名を考えて発表しました。

モノ作りでは、必要な道具や材料を「〇〇を貸してください。」と教員に要請します。また、友達が必要な材料を使用している時は、「〇〇さん、使い終わったら、次、貸してね。」と交渉することも大切な学習の要素です。

【もしもスピーチ】

「自分の考えを言葉で伝える」、「相手の話を最後まで聞く」ことをめあてとして、「もしもスピーチ」という活動をしました。特に、聞くことに関しては、「話している相手に聞いていると分かるサイン（相槌）を送る」こともコミュニケーション力を伸ばしていく大切な要素です。

例えば、「宝探しに行くとしたら、どこへ行く？」という問題で、①洞窟、②海、③ジャングル、④草原の4つの選択肢から一つ選び、選んだ理由も伝えます。また、選択しなかった理由も話すことによって、聞く人の興味をそそります。さらに、友達の様々な考えを聞くことによって、「へえ、そうなんだ」、「なるほど」、「たしかに」と相槌をうったり、拍手したりするなど、聞いていると分かるサインが少しずつ出てくるようになります。

宝探しをテーマとした最後の問題は、「発見した宝物が何だったのか」を自由に考えて話すことです。「宝石や金銀財宝」、「ほしかったゲーム」、「タイムマシン」、「忘れたくない記憶」、「スパイダーマンスーツ」など、子供たちの個性あふれる考えに感心させられました。

【ジェスチャークイズ】

「ゲームをする人」「サッカーでゴールを決めて喜んでいる人」などのお題がカードに書かれていて、それをくじ引きで引き当てます。そのお題に合った体の動き（ジェスチャー）を表現しました。

2チームに分かれて、「相手チームに何をしているところなのか当ててもらえるようなジェスチャー」をするために相談すると、一人では思い浮かばなかったような様々なアイデアが生まれる場面がありました。「サッカーでゴールを決めて喜んでいる人は、ゴールを決めた人がメインだから、キーパーの動きは小さくして、ゴールを決めて喜んでいるリアクションを大げさにしよう」というようなことを友達と話し合い、考えた動きを一生懸命練習する姿が見られました。

“相手に自分の思いを伝える”ためには、伝え方を工夫する必要があることを、今回の学習を通じて学びました。感情のままに相手に向かっていっても、話の本質が伝わりづらいことがよくあります。伝わらないと「あの人は分かってくれない。」と、イライラしたり悲しくなったりするものです。言葉を選び、相手の話に頷き、真摯に聞く姿勢を見せることも必要なのかもしれません。今回、子供たちはジェスチャーで伝えるためにどのようにすればよいか相談（言葉での伝え合い）し、より良いジェスチャーを創り上げることができました。